ハープソン Hokkaido 2023
結果・速報版

北海道爬虫両棲類研究会

はじめに

北海道爬虫両棲類研究会主催の 2023 年の「ハープソン Hokkaido 2023」は、4 月 15 日～8 月 21 日の期間で行われました。2012 年にスタートし、2014 年のお休みはありましたが、今年で 11 回目となりました。皆様のご協力に感謝いたします。参加者の方々からたくさんのデータのご送付を頂きました。大変ありがとうございます。ご参加下さった方々に御礼申し上げます。

この速報は、簡易的な結果報告と競技部分の受賞の発表となっております。詳細な報告、及び結果等については、2021 年～2025 年のデータを蓄積の上取りまとめ、2025 年度内に報告書を作製する予定でおります。

北海道爬虫両棲類研究会
副会長 徳田龍弘

調査の結果について（10/13 までの集計分として）

（さっぽろ生き物さがし【賞授には関わりません】のデータは、まだハープソンへの反映がまだ出来ていないので未集計です）

参加チーム数：17 チーム（昨年比+3）

ばいかだ / 自然ウオッチングセンター / のっぱら研究所 / 滝野の森 / アマアマアアマアマアマガエル
とかち蛙探偵団 / あげは / ぽんじろう / チーム西堀 / チームきたはく / HHS 情報収集 / Kawazu Lab
チームパックス / もじゃさんち / ささらだに / 潮まかせ / モリノコ商会

参加者数：のべ 31 名（昨年比+4）

調査されたエリア：113 エリア（昨年比+30）

期間内調査で確認された種：17 種（昨年比+3）

ヒガシニホントカゲ / ニホンカナヘビ / コモチカナヘビ / ジムグリ / アオダイショウ / シマヘビ
シロマダラ / ニホンマムシ / ミシシッピアカミミガメ / エゾサンショウウオ / ニホンアマガエル
エゾアカガエル / アズマヒキガエル/ ウシガエル / ツチガエル / トウキョウダルマガエル / トノサマガエル

頂いた生息データ数：

正式記録（確認データあり）： 301（+35）， 参考記録（確認データなし）： 12（±0）
その他の期間記録（確認データあり）： 47（+22）,番外（史跡名勝）データ：0（±0）

各詳細データについて

速報データは以上です。報告データは全部で 400 を超えました。周知不足の中、皆さんとても頑張ってくださったと思います。改めて御礼申し上げます。細かな種ごとの分布や検討については、2025 年度の発行を予定している「ハープソン Hokkaido2021-2025 結果報告書」（北海道爬虫両棲類研究報告別冊）にて行う予定です。

受賞等について

「ハープソン Hokkaido 2023」では、調査をして下さった方々に5つの賞を検討いたしました。各受賞チームには賞状等を贈呈する予定です。

★最優秀賞

ハープソン期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さったチームです

受賞者：ばいかだ（14種）　2位：Kawazu Lab（12種）

3 位：自然ウオッチングセンター、チーム西堀（9種）

今年は14種、'22年は12種、'21年は13種と、優勝ラインは13種前後となるのが最近の傾向です。このくらいの数を観察するには、春から夏にかけてそこそこの頻度でフィールドに出て、積極的に外来種なども観察する感じで到達する数字です。ここに加えて、釧路方面のキタサンショウウオや道北のコモチカナヘビなどを観察できると15種くらいまで到達してきます。最優秀を狙いたい方は、このあたりを参考にしてみてください！（ちなみに過去のハープソンでの最高観察数は14です）

★エゾサンショウウオ賞

ハープソン期間中にエゾサンショウウオを最も多くのエリアで確認したチームです。

受賞者：とかち蛙探偵団（7エリア）　2 位：ばいかだ（6エリア）　3位：チーム西堀（4エリア）

エゾサンショウウオの観察は、産卵される止水環境に限定される（産卵期に集まってくる成体や卵、その後孵化した幼生）ことが多いので、観察するにはサンショウウオの生態をある程度理解していないと難しかったかもしれませんね。この賞は毎回、種をピックアップして何か所のエリアでその種を確認できるかを競っています。'22はニホンカナヘビで最多が4エリア、'21はニホンアマガエルで最多が10エリアでした。来年はついにヘビの予定です。どの種が良いか悩んでいますが、シマヘビを予定しております。

★ばいかだ賞（最多エリア調査賞）

ハープソン期間中に最も多くのエリアを、調査して下さったチームです。

受賞者：とかち蛙探偵団(33エリア)　2位：自然ウオッチングセンター（22エリア）

3 位：ばいかだ（15エリア）

この賞は、調査したエリア数が最も多かったチームに差し上げておりますが、今年の最多は未曽有の30エリア越え。これ、本当にすごいことなんです。1エリアは2次メッシュというものの大きさで、10km×10kmが 1 エリアの広さになっています。これを33も調査したという事で、どれだけ大変な調査量になっているのか、想像を絶しますね…

★Booby3賞

種数が最下位から3番目の方、1 チームに授与します。運要素が高い賞です。

受賞者：もじゃさんち（2 種）　次点：チームパックス（2種：同率だったので抽選でした）

狙って獲れない賞の上に、抽選も引き当ててしまうという、最強の運の持ち主が手にする賞です。

★中島宏章賞（写真賞）

写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家の中島宏章氏（ http://hirofoto.com/ ）に選定していただきました。

受賞者：アマアマアマアマアマガエル（写真題：遥かなる空）

次点：滝野の森（写真題：森の中でかくれんぼ）

中島さんのコメント：1位から3位まで迷いました。1位のアマガエルは、表彰台にあがって1位のような堂々とした感じがあって良かったです。

おわりに

この速報は、簡易発表です。細かな種の分布確認や考察、参加者の感想やハープソンの今後についてなどを細かく記録したものは、今年度発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告」別冊版「ハープソンHokkaido2021-2025結果報告書」にて報告する予定です。

ハープソン Hokkaido 2023は、北海道爬虫両棲類研究会の会員にお知らせしたのと、副会長（徳田）のX（旧 twitter）と facebook で周知を行い、実施しました。2022年と同じ周知でしたが、全体的に参加者、参加人数が若干増え、データ数などが多く報告されました。繰り返し#herpthonタグが投稿されたことによって興味を呼び、新たな参加者が増えるという例もありました。SNS との親和性は悪くはないと思います。しかし、最近では X（twitter）が様々な仕様変更を行っており、現在の調査のやり方が維持できるか不安なところもあります。無料のサービスを利用しているので、仕方がないところではありますが、自前のシステム構築も必要になるのかなと考えていたりします。具体的にどうしたらよいか、また予算など、考えなければならないことがたくさんですが、より参加しやすいハープソンにしていきたいと思います。

各地域でご参加、ご協力下さった皆様に感謝いたします。本年度は助成金事業には応募せず、報告は速報のみとしています。データをまとめた報告書の作成印刷等は前述の通り、2025年度を目標に行って参ります。完成を楽しみにお待ち下さい。

ハープソンではデータを蓄積することを主な目的としており、将来的にはこれらのデータから生息状況の推移や、その時代の分布状況などを記録しておければと考えています。今後も可能な限りデータを蓄積していきたいと考えております。

今後ともハープソン Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしくお願いいたします。

執筆：徳田龍弘（北海道爬虫両棲類研究会・副会長）

ご応募いただいた、ほかの写真賞作品

「地球を背負うカエル」 チーム名：ささらだに

「らせん」 チーム名：潮まかせ

「春愁」 チーム名：ばいかだ